

上伊那音楽教育研究会

ハーモニー

第2号

令和7年8月20日

文責 唐澤真人

互いに高め合う上伊那音楽教育会

【自由曲講習会】

自由曲講習会が行われ、藤原規生先生のご指導のもと、各校の自由曲をみていただきました。表現力を高めるための歌唱技法や、曲のもつイメージを膨らませて表現につなげる大切さを伝えていただきました。また、歌詞の内容を子どもが考え、歌の表現につなげていく機会があり、子ども自身が思いをもって伸び伸びと歌う姿がありました。自分たちの感じた思いを歌で表現していく素晴らしい講習会になりました。



【南信Bブロック大会】

南信Bブロック大会が駒ヶ根文化会館で行われました。小学校の課題曲「あおい天使」は、流れるような曲調にのって、子どもたちの願いや希望を歌いあげる素敵な曲です。中学校の課題曲「空」は、うまくいかないことや不安な気持ちと向き合いながらも、一步一步進んでいこうとするメッセージが込められているように感じました。

コンクール当日の会場では美しい歌声が響き、各学校それぞれの個性が輝いていました。今までの練習の成果を存分に発揮し、堂々と歌う姿がすばらしかったです。

【夏期講習会】

8月5日に東春近小学校で講習会が行われ、田久保裕一先生のご指導のもと、指揮法講習会が行われました。教材は「変わらないもの」「超えてゆけ」

「この地球のどこかで」の3曲を扱い、参加された先生に指揮を振ってもらいながら指導していただきました。指揮をする上で「やる気にさせる」「その気にさせる」「いい気持ちにさせる」ということが大切で、振り方を工夫することで演奏者の力をさらに引き出すことができ、それこそが指揮者の役割だということです。その上で、私が講習の中で印象に



残ったことが3つありました。

1つ目は指揮者の表情です。その中でも特に目が重要で、「キラキラ光線」「うっとりまばたき」「視線はずし」という方法があり、曲調によって使い分けることで、演奏者への伝わり方がガラリと変わるということでした。2つ目は指揮の技です。はね上げ、おつまみ、にぎり、たたきなど音の始まりや音の終わりの指示の出し方。激しい曲調、なめらかな曲調の指揮の振り方の違いなどを教えていただきました。

3つ目は楽曲研究です。和音の特徴や終止形の種類などで変化する音楽の雰囲気や難しさを言葉で伝えるのではなく、「胸キュン」や「ウルウル」など分かりやすく伝わりやすい言葉で表されてて、日頃の授業でも活用できるものでした。そのことから指揮者は楽曲の知識をたくさん理解しておくことが重要であり相手に伝わりやすく工夫することが大切だと感じました。

参加された先生方は、田久保先生の指導に合わせて実際に指揮を振りながら熱心に取り組み、とても充実した時間となりました。



【合唱県大会】

合唱県大会は2日間にわたって塩尻市のレザンホールにて行われました。小学生の部の明るくエネルギーに満ちた歌声。中学生の伸びやかで繊細な響きが広がりました。皆で真剣に歌と向き合い、つくりあげてきた合唱は聴く人たちの心に強く訴えるものがあり、改めて音楽のすばらしさを感じる機会となりました。